

マイブンだより

平成25年1月28日 第7号

発行 都城市教育委員会事務局
文化財課

お待たせしました。6号9月24日以来、久々の発行です。仕事を休んでいたわけではありませんが、筆が進まなかった（PCなので指が動かなかった？）のが原因です。山之口小の校長先生も待ち遠しかったのではないのでしょうか。

○ 山之口小学校で出前授業

6月4日に山之口小学校で出前授業を行いました。自分たちの小学校の工事現場から発掘された王子山遺跡おうじやまや山之口古墳など山之口の遺跡について学習し、土器や石器などの出土品にも触れ、5・6年生は歴史学習に興味を持てるように、4年生には理解できる内容の授業を、という先生の希望がありました。2校時が4年生、3校時が6年生、4校時が5年生と、それぞれ山之口町の歴史と縄文時代の生活について学びました。



授業は、いつものように児童たちへの問いかけから始めました。「山之口に人が住み始めたのはいつ頃？」「小学校のある場所はどんなところ？」等など。答えは、2万年くらい前から、台地の上で川のそばでした。その2万年を、2mのテープで表しました。1mmが10年です。自分たちの年齢

が、わずか1mmでしかないことに驚いていました。そして、小学校から見つかった王子山遺跡が都城で一番古い遺跡ということ、その頃の道具とどうやって使ったのか、どんな動物がいたのかをイラストなどを使って説明し、ここで見つかった国内最古のネギ属を紹介するとみんな大興奮でした。



王子山遺跡は平成22年11月から23年3月まで、発掘調査を行いました。調査途中に遺跡を見学したことをほとんどの児童が覚えていました。このため、みんな興味を持って事前学習に取り組んでいたとのこと。担当も驚く反応の良さ、質問の多さはそのせいだったようです。この王子山遺跡から発見された土器や炭化した植物の茎などの一部は、5月29日

から7月20日まで小学校の校舎1階に展示しました。自分たちの学校の敷地から発見された遺物を目にしてもらおうという試みです。今回の授業の中では、この展示の内容も併せて説明しました。

授業は、担当者たちが縄文服を着用し、大小道具とDVDを使って行いました。ここで、新しい大道具が登場しました。^{れんけつどこう}連結土坑の実物大模型です。連結土坑とは、地面に掘った二つの穴をつなぎ、一方の穴に肉などをつるし、もう一方の穴で火を焚いて燻製を作るものです。その土坑の断面を発泡スチロールで作りました。わかりやすいよ



うに、絵にした猪を掛け、炎は赤いセロファンです。大きな葉っぱであおいでみせまし



た。^{たてあな}竪穴住居は、明道小で使用したもので、みんなの中に入って大きさを体感してみました。^{せきふ}石斧や弓矢は、以前から作っておいたものです。出土した土器や石器、そして^{たんかまい}炭化米にも触れることができた児童たちは大変満足そうでした。

質問が多かったと書きました。その一部を紹介しましょう。①トイレはどうしたの？ ②川で魚は取っていたの？ ③この辺りには何人くらい住んでいたの？ ④どんな服を着ていたの？等など。①は、川で用を足したり、穴を掘って用を足していたのではないかと考えられています。

②は、日本は酸性土壌なので骨などが残りにくいのですが、川が近いので獲って食べていたのではないのでしょうか。③は、今回は体育館建て替えの狭い範囲だけの発掘調査なので、何軒あったのか、周りに集落があったのかわかりません。ですから何人住んでいたのか



想像することが難しいのです。④は、担当が着ていた2種類の服を紹介しました。植物の繊維で編んだ服と、動物の毛皮で作った服の2種類です。

ほかにもたくさん質問がありました。興味を持ってもらえるのは大変うれしいことです。しかし、この時代はまだ文字も紙も伝わってきていないので、文字が書かれた資料が発見されるわけではありません。わからないことが多いのですが、当時の人が使っていた道具や住居跡、そのほかの痕跡を見つけ、当時の生活を想像しながら、新しい発見をみなさんにお知らせできるといいですね。